

プシケおおたニュース

2024年 8月号 NO.47

社会福祉法人 プシケおおた事務局
〒144-0051 東京都大田区西蒲田 4-4-1
TEL : 03-5700-6352
FAX : 03-5700-6753
E-mail psyche-ota@mbj.nifty.com
HP <http://www.koujiya-center.com/>

◆法人の理念◆

「一人ひとりの”ちから”を信じ、当事者の思いを実現する。」

～私たち（プシケおおた）は、関わる人・機関が持っている力とその可能性を信じ、当事者の「こうしたい、こうありたい」という思いの実現に向かって行動します～

◆運営方針◆ 職員行動指針：

- ① 当事者中心
- ② 自己決定
- ③ 権利擁護
- ④ 啓発
- ⑤ 協働
- ⑥ 創造
- ⑦ 研鑽
- ⑧ Win-Win



寄り添った支援活動とは

プシケおおた元理事 小山 廣子

「プシケおおた」の前身「あけぼの会」が設立されたのは40年前の1983年です。

当時保健所の保健師として働いていた私は、家族会の方々が口々に言う「入退院の繰り返しの日々を何とか出来ないか」と言う切実な思いに突き動かされました。精神の病気の人に対する福祉施策は何もありませんでした。保健師、精神疾患の方の処遇に悩んでいた生活保護ケースワーカー、医師、家族の方や保健所の事務職の方も含めて、新しい活動が始まりました。それは、各人の持つ力を出し合った明日の見える心浮き立つボランティア活動でした。それからほどなく、法律が変わり精神病患者から精神障害者と位置付けられて、福祉施策が始まり出した頃でした。当事者も加わり、今必要なものは何か出し合い、話し合い、即実践の日々でした。皆燃えていました。

その後、社会福祉法が改定され、基本財産が一千万円あれば社会福祉法人が設立できることとなりました。資金集めに取り組みました。まさにみんなの力でできた「プシケおおた」でした。現在は精神障害者施策も当時とは比べようもなく大きく前進していると見えます。当事者活動も活発となり、支援組織も増えてきています。しかし、依然として日本の精神科病院入院者の数は多く、退院して地域での安心・安定した生活をするにはまだまだ高い高い壁がありそうです。「あけぼの会」が始まった当初から精神障害者への地域生活支援を掲げてきました、長い入院生活からグループホームに入りいざ地域での生活を目指した時、不安がいっぱいの人にしっかり寄り添った支援が出来るのか？

寄り添った支援活動の一つとして、プシケおおたでも実施している「自立生活援助事業」があります。公的援助は微々たるもので法人全体から見たら財政的にお荷物になりかねませんが、これこそ必要な事業だと思っています。

少子高齢化が進む中、ますます人材不足は続くでしょうし、寄り添った支援などそれこそ絵に描いた餅になりかねません。こんな状況の中で私たちが「今、する事は何か？」

是非、多くの関係者で知恵を出し合い、先に見えるやっつけて楽しい活動が発展することを願っています。

私は、今年3月でプシケおおたを辞しました。充実した日々を過ごさせて頂いたことに理事・評議員、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。有り難うございました。

2023年度 事業報告

こうじや生活支援センター・かまた生活支援センター

相談支援事業及び地域生活支援センターI型事業

登録者	こうじや生活支援センター：162名		かまた生活支援センター：190名						
相談事業	基本相談(件)	面接	電話	訪問	同行	専門相談	連絡調整	ケア会議	生活支援
		こうじや	356	2,000	145	55	20	2,901	70
	かまた	589	2,567	160	42	7	4,092	58	2,438
	指定特定相談	計画相談年間支援実数:こうじや127・かまた173 計画作成数:こうじや88・かまた134 モニタリング件数:こうじや280・かまた375							
	指定一般相談	地域移行年間支援実数:こうじや6・かまた5 地域定着実数:こうじや4・かまた2							
オープンスペース	開所日数:こうじや180日・かまた193日、利用者数:こうじや1788人・かまた2560人、1日平均利用者数:こうじや9.9人・かまた13.3人								
行事(参加者数)	こうじやセンター祭り(154名)、こうじやハロウィン(メンバー:9名、地域:24名)、こうじや打楽器コンサート(メンバー:21、地域:8) 地域交流イベント(メンバー:9、地域:13)								
夕食サービス	休止中								
生活サポート	利用者数:こうじや23人・かまた6人、 従業時間:こうじや794分・かまた717分								
生活支援・地域交流プログラム等	実施回数:こうじや176回・かまた130回、利用者数(延):こうじや833人・かまた531人								
ボランティア	実人数:こうじや3人・かまた4人、 延人数:こうじや36人・かまた27人								
実習生受入	PSW実習生:こうじや3人・かまた3人、その他(看護・保健師・OT等):こうじや0人・かまた30人								

<こうじや生活支援センター>

2023年度は滝山病院事件の学習会を通して、一人でも多くの退院可能な方が地域生活を送れるように地域移行の促進を行い、区外の病院にも活動の幅を広げていきました。他事業所と協働することも多くあり、法人全体が協力する事や、一緒に考える事の必要を感じた1年でありました。

また、大田区内に、退院したばかりの方が暮らしやすいグループホームが少ない現状や居場所の問題、その他課題があると思われます。

地域活動支援センターI型の事業として、利用者家族の高齢化、本人の高齢化を意識する1年でした。また、利用者本人だけでなく、親や子供の問題等、家族の問題は複雑化しています。地域の関係機関との連携をさらに強くすることが必要だと思われます。

ピアサポーターについては、養成講座に出られたことを一歩として今後の検討事項としていきます。

<かまた生活支援センター>

相談支援事業は面接件数が年間589件と昨年より1.6倍に増加しました。利用者の相談したいニーズに応じていけるよう時間を作り、基本相談と地域活動支援センターI型事業と地域移行支援に重点を置きました。計画相談総数は昨年度より減少していますが、担当者各自が丁寧な支援を行い、サービス提供状況や書類作成などを意識し、確実な請求につなげていきました。

2023年度はコロナが5類になり、金曜日でもセンターを開所し、週4日のオープンスペース開所としました。また11月より土曜日の開館時間を19:30まで延長しました。そして運営ミーティングで利用者の希望するプログラムを少しずつ増やしていく事が出来ました。4年ぶりにクリスマス会を開催したり、打楽器コンサートグループにも来ていただき、地域交流イベントを実施できました。地域活動センターI型の大事さを感じる事が出来た1年でした。

地域生活安定化支援事業

支援実施者延数	3129人	訪問・面接・同行など	418件	電話相談	624件
関係機関調整	2043件	個別ケア会議など	44件	ショートステイ	46人(107日)

地域生活安定化支援事業は、①退院することに自信を無くしている方の意欲喚起、②退院に困難を抱える方の退院支援、③退院後、地域で不安定な状況で生活されている方の地域生活支援を行う事業です。2021年度からは大田区の補助事業として、④ショートステイ事業(退院支援とレスパイトに利用)も実施しています。加えて、給付事業として自立生活援助事業も行っています。このように、区の補助事業という利点を生かして、主に遠方の精神科病院に入院している方や退院の準備に時間のかかる方の支援を担当しています。2023年度はコロナウィルス感染症によって閉じられていた病院での支援が、徐々に開放的になる過程を経た年でした。

自立生活援助はるまち

新規利用	8名	終了者	9名	年度末利用者	15人
------	----	-----	----	--------	-----

自立生活援助は、ソーシャルワーカーが定期的に訪問して、手続きや生活の困りごとなどに利用者の方と一緒に取り組んでいく事業です。2023年度は、15人程度に満たない月がありました。新規の方はグループホーム退居者、保健師からの地域生活のアセスメント目的、訪問看護からの支援協力依頼などがありました。終了の方は、訪問看護が主体になる場合、グループホームへの入居、お亡くなりになった、などの理由でした。

ホームブシケ

入居者数	29人(3月末)											
2023年度退居者	8名	退居後の状況	アパート単身暮らし	4名	他施設	1名	実家	1名	入院	1名	その他	1名
2023年度新規入居者	8名	入居前の状況	地域から	1名	入院	7名						

コロナ5類への移行に伴い、徐々に通常業務に戻しながら入退居支援を実施してきました。職員・関係者がコロナやインフルエンザにかかることは続きましたが、感染対策を続けながら日常生活全般について支援してきました。東京都から依頼の3年間続いていたGH職員に対する毎週のPCR検査も3月末でようやく終了となりました。

ユニットごとにミーティングや夕食会、お菓子会、ランチ会などを順次再開してきました。入居者への同行支援も昨年度より増え、買物や行政手続き、入院・退院、作業所見学、銀行、ハローワーク、床屋・美容室、携帯ショップ、消費者生活センターなどのほか、受診においては精神科以外に内科、整形、眼科、耳鼻科、歯科、糖尿内科、呼吸器内科、食道外科、皮膚科など個別の同行は多岐にわたりました。また、各ユニットとも建物の修繕が増えてきて老朽化も進んでおり対応に追われました。

アインの会をはじめホーム連、大田区GH連絡会等への参加も継続してきました。コロナの収束により入居の間合せは多くなり、既存の6ユニットの空室解消を図ることができましたが、メゾンまちに代わる新ユニットの物件確保には至らず、年度を超えて取り組む課題となりました。

クッキングワーク街の駅

利用登録者数	34	1日平均通所者	10.2	平均年齢	51歳	開所日数	235
通所ベース	週1日…9名、週2日…14名、週3日…6名、週4日…5名						
配食サービス全体	実施日数	227	食数	年間	10,327	1日平均	44.1
	昼食弁当	144		年間	7,852	1日平均	54.5
	夕食弁当	90		年間	2,475	1日平均	27.9
作業内容	調理・配達・回収・パウンドケーキ作り・ポスティング・洗い物など						

2023年度で事業所開設から11年目、登録者数は34名(新規利用者4名、退所者5名)となりました。登録人数は維持していますが、利用者の高齢化や体調が安定せず月に1～2日しか通所できていない利用者もいるため、作業する場所だけではなく居場所的な役割を担う場所としてのニーズが出てきています。作業が体力的・体調的に難しい利用者のための作業確保が必要になってきています。

配食サービスの注文数は関係機関からの紹介などで新たなお客様の獲得により食数を増やすことが出来ました。現状の食数を維持していけるように引き続き営業活動を行っていきます。

パウンドケーキは店頭販売やおおむすび(大田区生産活動支援施設連絡会)の共同販売などで安定した売り上げを出せるようになってきました。

昨今の物価高騰による原材料の値上がりにより、お弁当やパウンドケーキの値上げを検討する必要性も出てきていますが、できる限り皆で努力して現状の金額で提供できればと考えています。

2023年度 決算報告(法人全体)

法人単位事業活動計算書
(自)令和 5年 4月 1日(至)令和 6年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	就労支援事業収益	5,028,350	4,347,735	680,615
	障害福祉サービス等事業収益	228,622,535	225,569,540	3,052,995
	経常経費寄附金収益	632,000	1,015,000	△ 383,000
	サービス活動収益計(1)	234,282,885	230,932,275	3,350,610
	費用			
	人件費	163,504,697	161,624,770	1,879,927
	事業費	6,974,298	7,755,775	△ 781,477
	事務費	50,921,710	54,314,794	△ 3,393,084
	就労支援事業費用	5,024,793	4,319,538	705,255
減価償却費	4,416,167	6,256,130	△ 1,839,963	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 3,126,557	△ 3,149,690	23,133	
サービス活動費用計(2)	227,715,108	231,121,317	△ 3,406,209	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	6,567,777	△ 189,042	6,756,819	
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	1,387	1,839	△ 452
	その他のサービス活動外収益	519,088	465,727	53,361
	サービス活動外収益計(4)	520,475	467,566	52,909
費用				
サービス活動外費用計(5)				
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	520,475	467,566	52,909	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	7,088,252	278,524	6,809,728	
特別増減の部	収益			
	特別収益計(8)	0	0	0
	費用			
	固定資産売却損・処分損		508,353	△ 508,353
国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)		△ 159,733	159,733	
特別費用計(9)	0	348,620	△ 348,620	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	0	△ 348,620	348,620	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	7,088,252	△ 70,096	7,158,348	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	106,318,068	106,388,164	△ 70,096
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	113,406,320	106,318,068	7,088,252
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)			
	その他の積立金積立額(16)			
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	113,406,320	106,318,068	7,088,252	

財産目録

2024年3月31日

I 資産の部		II 負債の部	
1、流動資産	130,014,890	1、流動負債	23,100,834
現金預金	107,629,234	未払金	12,478,446
未収金	22,148,010	預り金	3,247,926
立替金	27,271	賞与引当金	7,374,462
前払金	210,254	2、固定負債	0
仮払金	121		
2、固定資産	37,412,167		
基本財産	10,000,000		
その他の固定資産	27,412,167		
資産合計	167,427,057	負債合計	23,100,834
差引純資産			144,326,223

新入職員紹介

はじめまして。5月より(月)金に2日間、こうじや生活支援センターで、非常勤職員で働いています岡本和子です。仕事は続けていましたが電話に出ることやパソコンに触れる机に向かう仕事は10年ぶりくらいです。まだ勝手のわからない状況ですが何とか必死にやっています。これからよろしく願いいたします。

7月よりかまたセンターで働かせていただいております鈴木純子です。これまで電話相談の受託やお客様センターの品質管理など民間企業で働いておりましたが、学びのため通っていた心を病む人たちが安心して過ごせる場所は、私にとっても心地よく、人が抱える弱さも受け止めあえる場の大切さを実感しました。思いはあっても至らぬことばかりですが、一日も早くお役に立てるよう精進して参ります。皆さまどうぞよろしく願いいたします。

3月よりメゾンしろに勤務しております石川由希子です。以前からグループホームで働いてみたいという思いがあったので、この度ご縁をいただくことができまして、とても感謝しています。利用者の方々が地域で生活をしていく直前の大切な場を、一緒に楽しみながらお手伝いさせていただきたいと思っています。よろしく願いいたします。

クッキングワーク街の駅非常勤職員の辻本すみ子と申します。私は品川生まれの品川育ちで、品川区の事務職員として働いてきました。定年退職後、福祉大学の通信課程で社会福祉を学び、今年の3月末まで品川区の生活保護相談員をしていました。次は精神保健福祉士として働きたいと思い、ハローワークを通じてプシケおおたとのご縁を頂きました。どうぞよろしく願い致します。

退職職員挨拶

この度、第一子出産のため7月31日付けで退職することとなりました。社会福祉法人プシケおおたに入職しての5年間、ご迷惑をお掛けすることも多かったのですが、皆様からの温かいご指導・ご鞭撻のおかげでここまで仕事を続けることができました。心から感謝申し上げます。今後しばらくは育児に専念する予定ですが、将来、仕事に復帰することがあれば、皆様から学んだことを思い出して成長していきたいと思えます。最後になりましたが、皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

かまた生活支援センター 戎野早紀

この度、私事で大変恐縮ですが、8月末をもちまして、プシケおおたを退職することになりました。在職中は大変お世話になりました。利用者みなさま、各関係機関みなさま、町会みなさまにはご指導、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。本来であれば、直接ご挨拶を申し上げるべきところ、紙面での挨拶となりましたこと、お詫び申し上げます。みなさまのご活躍をお祈りいたします。

かまた生活支援センター 地域生活安定化支援事業 自立生活援助事業 はるまち担当 渡辺紀子

私事ですが、8月末日をもって退職することになりました。利用者の皆さま方、各関係機関の皆さま方には大変お世話になりました。たくさんのフォローをしていただきましたこと感謝に堪えません。皆さま方のお陰で様々な経験をさせていただいたことを糧として、新しい一歩を踏み出していきます。長年にわたり繋げてきたご縁を大切にしたいと思っていますので、今後ともよろしく願い申し上げます。本当にありがとうございました！

企画室長 高橋努

こうじゃ生活支援センター

こうじゃセンターにて夏のおまつりが開催されます。
糀谷地区のおまつりも同日に開催される予定です。

こうじゃセンターまつり 予定表

8月18日 日曜日

11:00~11:30 開会式

11:30~12:30 当事者発表

13:00~15:00 小学生以下対象

レジンアクセサリ・プラバン作り体験

15:00~15:30 音楽演奏

終日：作業所からお菓子・飲み物販売
アクセサリ・小物の販売
スタンプラリー(小学生以下対象)

小学生以下のお子様を対象に各施設をめぐって景品がもらえるスタンプラリーを実施しますので、ぜひ近隣のお祭り会場にもお立ち寄りください。

こうじゃセンターではメンバーミーティングなどでメンバーの皆さんからでた意見や、やってみたいことをメンバーの皆さんが中心となりプログラムとして行っています。

・ランチ会を再開しました。メンバーの皆さんと食べたい料理を決めて、調理をしています。



「一人で食べるより皆で食べた方が楽しいです。」

「みんなで一緒に食べられて良かった。」

メンバーミーティング後には色々な話題や内容を皆で話すフリートークの時間を設けています。

・お菓子作りのプログラムをはじめました。作ったものを皆で食べるお茶会も開催する予定です。プログラムの様子は、毎月のおたよりにものせておりますので、そちらもぜひご確認ください。

かまた生活支援センター

コロナ禍後の生活支援センターでは、まだコロナに配慮しつつ、段々とコロナ前の運営状態に戻りつつあります。

プログラムは、密になりにくい外出プログラムを中心としていましたが、室内のプログラムも増やしています。まず、希望の多かった調理系のプログラムが2つ増えました。クッキングとお菓子作りです。クッキングプログラムは、どのような料理を作るかのミーティングを行い、決まった料理を翌月に調理するという順序で行っています。お菓子作りは月に一度、第二土曜日にお菓子作りが得意なボランティアさんに来ていただき、皆でお菓子を作るというもので、6月には抹茶白玉を作りました。

また、室内で行うものは、ミーティング系のプログラムも増えています。まずは、コロナ以前からあったお茶会・交流会の復活です。お茶を飲みながら、ゆったりとした気持ちでお話をするというプログラムです。そして、SSTです。SSTはソーシャルスキルトレーニング、すなわち、社会生活を送る上で必要なコミュニケーションの練習をするためのプログラムです。参加者から日常のコミュニケーションで困ったこと、苦手なことを上げて貰い、それをロールプレイを通して練習すると言うものです。今後、どういう展開となるのか、注目したいプログラムです。

さらに、ピアサポートのプログラム。これは最近始まったプログラムで、同じような悩みを持つ人同士で支えあう事を考えていく重要なプログラムと考えています。安心して参加できる雰囲気や、当事者主体で専門性よりも当事者性を大事にし、試行錯誤しながら行っていきたくと思っています。

また、7月6日の土曜日には三味線のボランティアさんによる演奏のプログラムも行われ、地域のボランティアさんにもプログラムに参加して頂くなど、地域交流活動の芽も着々と撒かれています。

利用者さん提供の作品



クッキングワーク街の駅 東京スカイツリーへ・・・

クッキングワーク街の駅では6月14日(金)に東京スカイツリーへ行きました。京急蒲田駅に9時30分に集合し、押上駅まで電車で約30分の行程でした。

今回は14名のメンバーが参加しました。参加者は多かったですが集合時間に遅れることなく予定より早めに出発することができました。

スカイツリーでは展望デッキまでエレベーターで昇り東京の街並みを一望しました。展望デッキでは写真を撮ったり、あまりの高さに驚いていたたり、それぞれ自由な時間を過ごしました。お昼はソラマチのフードコートにて各自が食べたいものを食べ、その後はお土産を買う時間を作り、買い物を楽しみました。ちょっとしたハプニングはありましたが、皆、体調を崩すことなく無事に帰ってくる事が出来ました。参加したメンバーさんからは「楽しかったがいっぱい歩いて疲れてしまった。」「天気は良かったけど、富士山が見られなかったのが残念だった。」「もう少しお土産を買う時間が欲しかった。」などの感想をいただきました。



ホームブシケ

ホーム内で研修を行いました

ホームブシケでは職員同士で研修を定期的に行っています。今回は病院で働くPSWをテーマに、以前病院で働いていた職員がどのような業務を行っていたかについて共有するというものでした。私も病院相談室で働いた経験があったので発表者2人のうちの1人として研修に参加しました。

今回は相談室だけでなく、デイケアに訪問看護、生活訓練も経験した方がおり、普段なかなか知ることが出来ない仕事について詳しく聞くことが出来ました。

病院を経験した者同士で共通して今後に活かしたいこととして、なんでも相談できる・安心できる職場にしていくことを挙げました。私たちは本人や関係者と話し合って支援を進めていきます。本心で話し合いやっていくためには信頼関係を作ることが大切です。それは一緒に働く人同士でも同じことです。

日頃から雑談したり、ささいな悩み事を話し合えたりすることで信頼関係が出来、安心につながる職場になると思います。

今も安心できる職場づくりを意識していますが、これからも引き続きやっていきたいと思っています。

長谷川

『コミュニティ・スペース (CS) にしかまた』の近況

CSのお店は週3日間、午前11時から午後4時半までしか開いていませんが、常連のお客さんや近隣の団体さんから多く利用されています。毎日開いてほしいとの要望がありますが、ボランティアの人出が足りないのが実情です。お店はコーヒーや紅茶、ジュースなどの飲み物の他にトースト、パウンドケーキ、クッキーなどがあります。そして、衣類や日用品、文具、おもちゃ、本、テープなどの様々なものが販売されています。それらはすべて近隣の人たちからの寄付です。これらの品物を買ってくださる常連さんも増えています。この売り上げが毎月伸びています。店は近隣のお休み処として定着したようです。また、社会福祉協議会依頼の『車いすの無料貸し出し』の利用者も増えています。店がお休みのときには地域包括支援センター主催の『スマホ相談会』やくらしの友主催の『終活相談会』が定期的にかかれ、店が利用されています。『

子供、外国人など、誰でもが安心して来られる店になるようにスタッフ、運営者一同、さらに励んでいきたいと願っています。



(運営委員・スタッフ佐々木)

賛助会だより



社会福祉法人プシケおおた賛助会の第14回総会を開催しました。

6月23日の日曜日午後2時半～4時半 前半の30分で総会を開催、後半の90分は、シンガーソングケースワーカーの渡辺潤さんのミニコンサートを楽しみました。

参加者は18人でした。総会では、法人への財政的支援(「2023年は30万円の寄付」)だけでなく、地域連携の法人の事業を、賛助会としても支援していくことを確認しました。CSIにしかまたでの地域連携事業に対する取り組みの状況や、法人の支援をもっと手厚くという意見も出されました。

後半のコンサートでは、冤罪事件「布川事件」の講談も入って、冤罪で苦しまれた桜井昌司さんの人生の歌、渡辺さんご自身のケースワーカーとしての矜持を歌った「おいらケースワーカーの歌」はとても胸に響くものがありました。最後に「あの素晴らしい愛をもう一度」を皆で歌いました。

プシケおおた賛助会費を2024年1月1日から2024年7月25日迄に納入して頂いた方(敬称略)

個人会費； 11名

団体会費； 1団体

♥ 心より御礼申し上げます。酷暑の折、ご健康とご多幸を祈念申し上げます ♥

プシケおおた賛助会代表 佐々木康生

入会のご案内；

プシケおおた賛助会は、社会福祉法人プシケおおたの運営の維持・発展のために支援協力することを目的として活動を行っています。当会の趣旨にご賛同いただける方の入会をお待ちしております。会費は年間1口2000円からで、何口でも可能です。入会を希望される方は、下記口座に会費をお振込みください。

郵便振替 口座番号 00150-5-663423 加入者名 プシケおおた賛助会

小山さんを囲む会

6月19日(水)にコミュニティスペースにしかまたにて、小山さんを囲む会を行いました。利用者の方、地域の関係者の方、元職員の方など多くの方にお越しいただき、あたたかい会を催すことができました。お越しいただいた皆様ありがとうございました。

小山さん長い間本当にありがとうございました！



編集後記：昨年度はコロナウイルス感染症の5類移行に伴い、社会全体を通して様々な活動が戻ってきた1年だったように思います。また、ただ戻るのではなく時勢にあわせて変化したのものも多くありました。様々な変化に追いつきつつも、故きを温ねることも大切にしていきたいと思えます。 (こうじや生活支援センター 廣野)